

月報

蕨の教会

日本聖公会
川越キリスト教会

〒350-0056 川越市松江町 2-4-13 (牧師) 司祭 パウロ鈴木伸明 ☎049-222-1429 FAX049-222-2056
http://www.kawagoe-seikokai.org/ (編集)文書部 ルカ 野澤 達也

2018年度宣教テーマ「あなたがたに平和があるように」(ヨハネ福音書 20章 19節より) …多文化共生の社会へ…

2018年イースターメッセージ
あの方は復活なさって、ここにはおられない

司祭パウロ鈴木伸明



が語られることになるのです。復活のメッセージはたった一言です。

ガリラヤ、それは主イエスがおよそ3年にわたり宣教生涯をかけられた場所であり、福音書の主な舞台です。主イエスが十字架にかけられたエルサレムからガリラヤまで歩いて約一週間かかります。彼らはその距離も忘れてガリラヤへ向かいました。十字架の失望に沈んでいた人びとの心に、再び勇気と希望が湧き上がってきた。人間の力では到底なし得ない事実が、ここに起こったのでした。これは真実であると語っているのです。

主イエスは神の国を伝えられました。それは場所や時間に制限されたことではありませんでした、主イエスの存在は、時間を越え、距離を越えて人々に救いをもたらしたのでした。主イエスが十字架にかけられたことよって、すべてがなくなってしまうのではなかったのです。若者が彼女たちに伝えたのは、死者のなかに主イエスを捜すのではなく、私たちの心に生き続けておられる主イエスを捜しなさい、との言葉だったのです。

世界各地で多くの対立、苦難、失望が続く中で今年のイースターを迎えました。復活の主によってすべての人に神様の愛を示され、世界に救いと希望がもたらされますように……。

マルコによる福音書の記述により、まずと、十字架にかかり最期を遂げた主イエスは、アリマタヤのヨセフが自分のために用意していたお墓に葬られました。お墓には大きな石が置かれました。それは、人間の力で主イエスを運び出すことは出来なくなつたと言っているのです。翌日の土曜日は安息日でした。この日は歩く距離も仕事も厳しく制限されていますので、皆主イエスに心を寄せながら、墓には行けません。しかし、婦人たちは香料の用意をし、決して安息してはいなかったのです。

日曜日の朝、明るくなるのを待ち兼ねたように婦人たちはお墓に向かいました。そこで復活のメッセージが語られることになるのです。復活のメッセージはたった一言です。すなわち、お墓が空であった、という事です。彼女たちは主イエスの体に香料を塗るつもりでした。あの重い石を自分たちが転がすことは不可能です。誰が自分たちのために石を転がしてくれるのだろうか、と、歩きながら心配していたのです。しかし、墓に行くのと石はすでに転がされておりました。しかも主イエスの体は見当たりませんでした。墓の中には白い長い衣を着た若者がおり、こう言いました。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あなたの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と」。

お墓は死んだ人の入るところです。主イエスは亡くなられた、そしてお墓に葬られた、だから今でも体がお墓にあるはずだ。そう考えていた彼女たちに、主イエスの真の姿を思い出させる言葉でした。